

日本各地で問題となっているジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）が当JA管内の水田でも発見されています。ジャンボタニシについての対策情報を紹介いたしますので参考にしてください。

物理的な防除

田植え前の防除

① 厳寒期の耕起

1月中旬～2月上旬にロータリーにより圃場を耕起します。地中に潜っている貝を物理的に破壊して、寒気にさらされると凍死します。

② 畑作輪換の実施

畑作にすると夏の乾燥に弱いため、生息場所が少なくなります。

本田での防除

① 圃場への侵入防止

取水口や排水口に網目5mm以下の金網を設置して、用水路からの侵入を防ぎます。

② 田植後の浅水管理

田面を平らにして水深を4cm以下に保つと貝の活動が鈍くなります。

③ 卵塊の水中への掻き落とし

水田や水路の卵塊は見つけ次第、水中に落とします。卵塊は水中で呼吸ができないので死亡します。

石灰窒素による田植前防除

【注意】4～6kg/10aの窒素が投入されることになるので、基肥の窒素量は加減して施肥してください。

- ① 荒起し後、3～4cm水を張り、3～4日間放置してください。



- ② 石灰窒素を20～30kg/10aを全面にムラなく均一に散布して、3～4日間放置してください。



散布後は必ず用水路に流さず、自然落水を待ってください!!

- ③ 代かきを行い、2～3日おいてから田植えしてください。

【注意】ジャンボタニシ防除は農薬登録のある国産石灰窒素を使用して下さい。

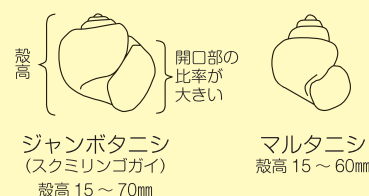
ジャンボタニシとは？

正式名称スクミリンゴガイ。南米原産で、昭和56年頃に養殖用として輸入されたものが逃げだして水田に侵入し被害を拡大しています。水稲では田植直後～3週間の幼苗期の柔らかい葉を食害します。

▼ジャンボタニシの成貝と卵塊▼



▼日本産のタニシとの違い▼



宮農

インフォメーション



EINOU
information

これからでもできる
ジャンボタニシ防除

ジャンボタニシは繁殖力が強く、水路を通して侵入するため、発生を確認したら地域全体での防除に努めましょう。